

広域交流型オンライン学習・中学校(7月)

—現代社会の見方・考え方とは何で、どう働かせることができるか—

広島大学 川口広美・草原和博

1. 概要

新学習指導要領の大きな軸になっている見方・考え方であるが、その定義の曖昧さのゆえに、何をどのように教えて学べば良いのかも不明瞭な状況である。子どもが社会科における見方・考え方の具体を把握し、それを働かせる方法を提案するオンライン遠隔授業を行う。

7月には、現代社会(公民)の見方・考え方を主に取り上げる。授業はT1(川口・草原)の進行と、T2(各校の授業者)の各学級での指導で展開する。機器の操作は大学院生や本市 ICT 支援員がサポートする。

2. 目標

1. 「見方・考え方」という概念を用いることで、自分自身の社会の見方・考え方の特質が理解できると共に、他者の社会の見方・考え方の特質も理解できる。
2. 1.を通して、「現代社会の見方・考え方」の意義や意味を理解し、今後の活用方法を構想できる。

3. 学習の流れ

	段階	メインの学習活動	見方・考え方
	「見方・考え方」の 視点獲得①	①身近な事例を通して「対立」と「合意」概念について検討することを通して、公共社会における意思決定においては(対立を回避・解消することが重要ではなく)「合意」が不可欠であることを理解する。	「対立」 「合意」
	「見方・考え方」の 視点獲得②	②地域社会の具体的な事例(=合意した事例)の「対立」と「合意」で分析することを通して、「利便性」(→共通性)・「希少性」「持続可能性」(→多様性)といった現代社会の見方・考え方を理解する。	「利便性」 「多様性」 「希少性」 「共通性」 「持続可能性」
「見方・考え方」概念 の獲得		③合意を行う上で、「現代社会の見方・考え方」があることの意味を検討することで、「現代社会の見方・考え方」ということが何かを理解する。	「現代社会の見方・考え方」
	「見方・考え方」の 視点応用	④地域社会の具体的な事例(=合意していない事例)の「対立」と「合意」について、②で行った、「利便性」(→共通性)・「希少性」「持続可能性」(→多様性)といった現代社会の見方・考え方を活用して、分析する。	「利便性」 「効率」 「希少性」 「公正」 「持続可能性」
「見方・考え方」概念 の意味付け		⑤「現代社会の見方・考え方」があることで、自分の見方がどのように変わったかを検討することで、意味付けを行う。	「現代社会の見方・考え方」

4. 指導案（赤字部分が、特に各クラスでの話し合いや発表があるところです）

T1 (川口・草原)の動き	予想される生徒の反応	T2 (各学級の社会科担当者)の動き
<p>【導入：対立と合意とは？】</p> <p>○挨拶・準備（5）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のコンセプト ・学校ごとの挨拶 <p>＜導入＞事前アンケートの振り返り（15）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5つのクラスがオンラインでつながって学習することの確認 ・事前に「対立」に関する問いに答えてもらった。 <ol style="list-style-type: none"> 1. みなさんにとって「対立」というと何をイメージするか？また、「対立」に持っているイメージって何か？事前アンケートの結果を見てみよう。 2. 教科書では、「対立」はどのように定義されているか、確認してみよう。 3. 普段、私たちの身近な対立（「親子げんか」「友達との喧嘩」）は、どうやって「仲直り」するか？事前アンケートの結果を見てみよう。 ・「合意」と「仲直り」の違いって何か？ ・なぜ、社会では「合意」が重要なのか？（草原） 	<ul style="list-style-type: none"> ・親子げんか、友達同士のけんか、テレビ番組や youtube 等での議論の場面・・・ ・悪いことが多い（イメージ） ・教科書の文言を確認する ・時間がたつのを待つ、喧嘩しないようにする、無視する・・・ ・一般的な仲直りは「争いがなくなること」をさすが、合意は「関係する人々がその解決策にたがいに納得し合うこと」をさす。 ・特定の人の影響が強くなりすぎるから（人の支配） ・民主主義の原則が、みんなで話し合うことにある（独裁の危険性） 	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンをネット接続させる。 ・ディスプレイの音声を調整する。 ・生徒のタブレットに、本日の授業の画面を表示させておく ・ツールミン図式を用いることを予告しておく。 ・T1に注目させる ・教科書（p.25）を開いて、該当箇所（「対立」）を確認するように促す ・T1に注目させる ・教科書（p.25）を開いて、該当箇所（「合意」）を確認するように促す ・板書で、「対立」「合意」のプレートを張る。 ・T1に注目させる ・該当する教科書ページ（p.41「人の支配」）を開く

<ul style="list-style-type: none"> ・重要なにも関わらず、普段の生活の中で「合意」をせず、対立を回避することになってしまうのはなぜか？合唱コンクールの曲決めにおける A さんの場合を見て、考えてみよう。 ・どうすれば、反対している場合も、他者の意見に納得し、「合意」できるのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間がかかる ・問題に関心がない ・人に嫌われるのが怖い <p>→日常的には「合意」というのは困難であることを実感する (考える) 難しい・・・</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスで話し合い、理由を絞る ・代表者 1 人を選出し、発表する。
--	---	--

MQ:どのようにすれば「対立」から「合意」できるのだろうか？色々な事例から考えてみよう。

<展開 I > (30 分)

「鞆の浦埋立て架橋計画問題」について検討する

<ul style="list-style-type: none"> ・どのような問題だったか？ ・トゥールミン図式を使って整理してみよう。 ・賛成派はなぜ架橋をしようとしたのか？ ・賛成派の人たちは、どのような社会になることを大事にして、このような主張をしたのだろうか？ ・では、反対派はなぜ架橋に反対したのか？それぞれの中学校で分かれて考えてみよう。(事実・福富、主張：志和、理由：河内・豊栄) 	<ul style="list-style-type: none"> ・鞆町の道路は大部分が江戸時代から継承されたものであるため、車の円滑な通行に支障をきたす箇所が多く存在していた。この為、広島県と福山市は、鞆地区を東西に結ぶ県道 47 号線バイパス (地図～地図) の建設を計画した。しかし、一方で、景観保護の観点から反対する人もいた。 ・道路を作ることで、出入りする人にとって便利な社会になる ・日本において多くの人が好む便利さを、どこにでも誰でも保障することが大事だ。 <p>主張：鞆の浦にバイパスを通すべきではない 事実：鞆の浦の景観は江戸時代から続く景観である 理由：一度行くと基に戻らない。景観は歴史的に価値があるものである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・TI に注目させる ・教科書のページを開かせて、トゥールミン図式について思い出す。 ・TI に注目させる ・TI に注目させる ・各クラスで話し合い意見を絞る (事実：福富、主張：志和、理由：河内・豊栄) ・代表者 1 人を選出し発表する。
--	--	--

<ul style="list-style-type: none"> ・反対派の人たちは、何が社会で大事だと感じているのだろうか？（全員） ・これは、どのような対立なのか？（TI:草原） ・結果として、どうなったか？（TI：草原） ・対立と合意の観点で整理してみよう。（TI：草原） 	<p>裏付け：少数の生き方を尊重し、社会として多様性を担保することが大事だ</p> <p>・多様性（希少性）を重視するか、共通性（利便性）を重視するか。という見方・考え方の対立であると考えられる</p> <p>・2016年2月に広島県は埋め立ての免許交付申請を取り下げた。広島県が架橋計画の中止とともに山側にトンネルを掘削して道路整備をおこなう意向を固め、建設事業は事実上頓挫した</p> <p>→このように、景観保護に特化しつつも、両方の意見を尊重することで「合意」した。</p> <p>・対立：希少性、利便性→効率・公正</p> <p>・合意：「持続可能性」：基本は景観保護に立ちつつも、利便性も重視するという2つのバランスをとる方法を考えた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスで話し合い意見を絞る ・代表者1人を選出し発表する ・TIに注目させる ・TIに注目させる ・TIに注目させる ・プレートを黒板に貼る
<p><展開2>（10分）</p> <p>「現代社会の見方・考え方」の意味や意義について考え、理解する</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・主張に関わる情報を視点に沿って整理することは、大人の世界でもよくなされている。 ・このように整理をすることは、どのような良さがあっただろうか？ない時と比べて何が良いだろうか？（解説：草原） 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題が理解しやすい ・対立する意見が理解しやすい ・解決策が考えやすい・・・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級で、生徒に色々な意見を聞き、Jam boardでまとめてゆく。
<p><展開3>（35分）</p>		
<p>「西条町の酒蔵通りの街道問題」について検討する</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・どのような問題か？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・西条は、東広島市の中枢区にあり、昔から酒造りが盛んだった。昔からの風景を残す酒蔵通りは、全国から観光客もきている。一方で、西条の酒蔵通りは交通手段の改善もかねてから指摘されていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・TIに注目させる

<ul style="list-style-type: none"> ・市役所文化課の吉野さん(道路づくりに対して慎重派)と後藤さん(賛成)の意見を聞いてみよう。 ・先ほど使った見方・考え方をを使って、主張の理由と裏付けをトゥールミン図式で整理してみよう。 (解説：草原) ・皆さんは、道路づくりに賛成か、反対か？その理由は？ ・後藤さん・吉野さんは、どのように合意を図ろうとしていたか？ ・ほかにどのような合意案が行えそうか？考えてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在吉行・泉線を通すことが論点としてあげられている。吉行・泉線は、酒蔵通りの東側を通るため、賛否が分かれる。 (Youtubeを流す) (慎重) ・主張：道路建設は慎重にすべき ・理由：酒蔵通りの景観は歴史的価値がある ・裏付け：少数の生き方を保障し、社会として多様性を担保することが重要だ (賛成) ・主張：道路建設は進めるべき ・理由：道路を作ることで、利便性と安全性が向上する ・裏付け：多くの人の生活が便利になることを保障することが重要 ・賛成である。理由は～ ・反対である。理由は～ ・賛成派：道路のデザインの調整を行い、景観に合うようにする。 慎重派：伝統保存地区の指定を取り、保存をしながら進めようとする ・(例) 違うところに道を通すなど、混雑解消のための工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級で意見をまとめる→全体で発表 (福富・志和：賛成、豊栄・河内：反対) ・個人→全体で意見共有 (フォーム回答から回答結果の表示) ・TIに注目させる ・グループで話し合い、案をJam boardで共有
<p><終結> (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「現代社会の見方・考え方」は、今後、どのような場面で使えると思いますか。あなたが使いたい場面を、できるだけ具体的に説明してみよう。(身近な事例でも、公民的分野の学習でもよいです) ・また、そのような場面で使いたいと思った理由もあわせて説明してみよう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・事後アンケートに答える ・時間があれば、全体で共有する